

# CD TRANSPORT

# DP-90

COMPACT  
disc  
DIGITAL AUDIO

CDトランスポート

取扱説明書



Accuphase

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程および結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

## お 願 い

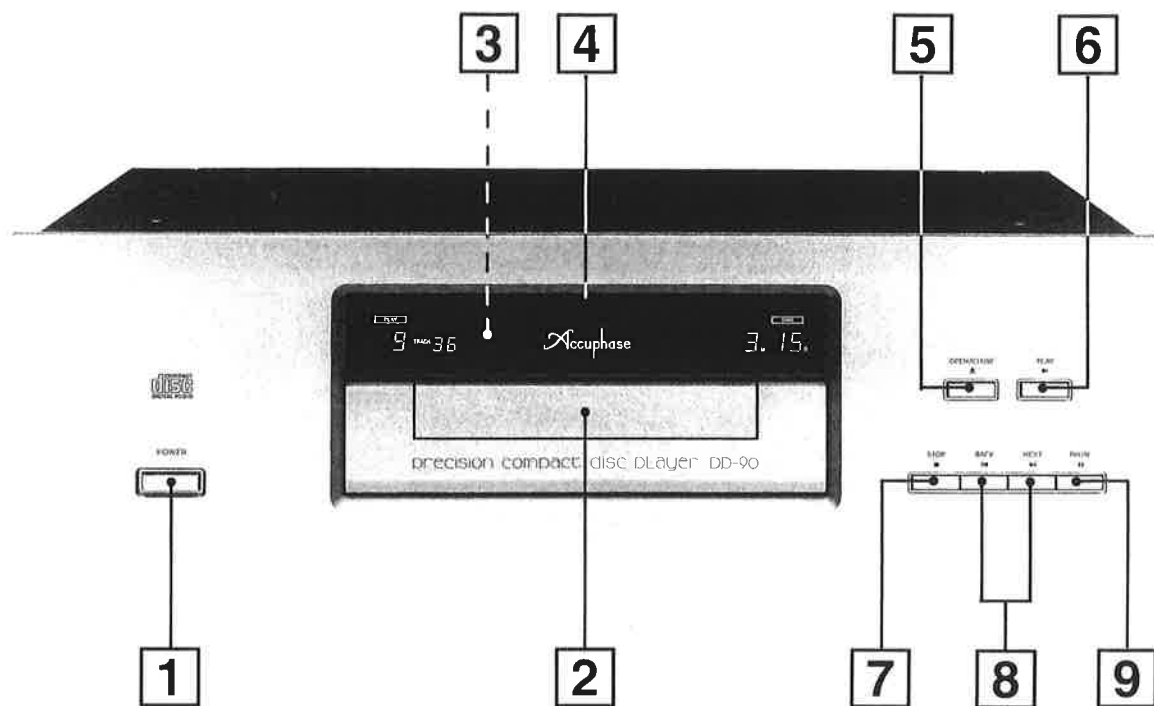
お客様カードを付属していますから、これに必要な事項をご記入のうえ、なるべく早く（お買上げ後10日以内に）ご返送ください。お客様カードと引き換えに品質保証書をお届け申し上げます。

製品に関するお問い合わせ、または異常が認められるときは弊社、品質保証課または、お求めの専門店へ、直ちにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

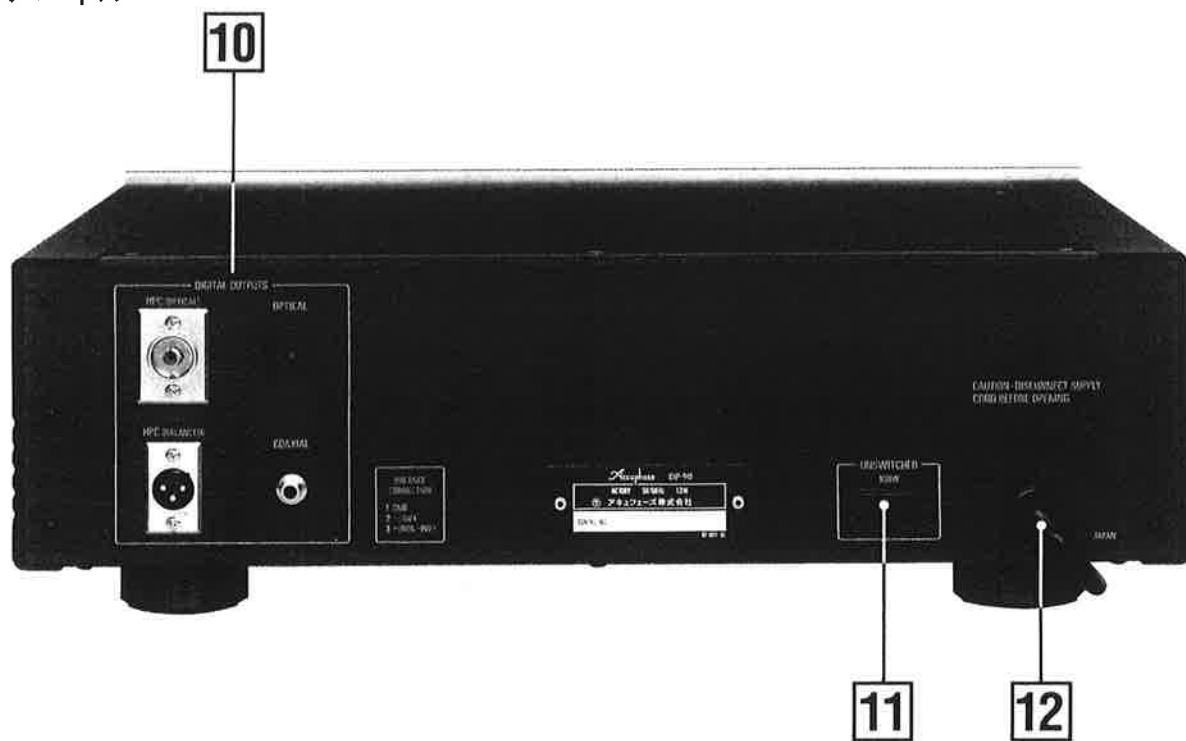
## 目 次

接続図	3
特長	4
ご注意	5
各部の動作説明	6
ご使用方法	13
リモート・コントロール	16
保証特性	17
特性グラフ	18
ブロック・ダイアグラム	19

フロントパネル



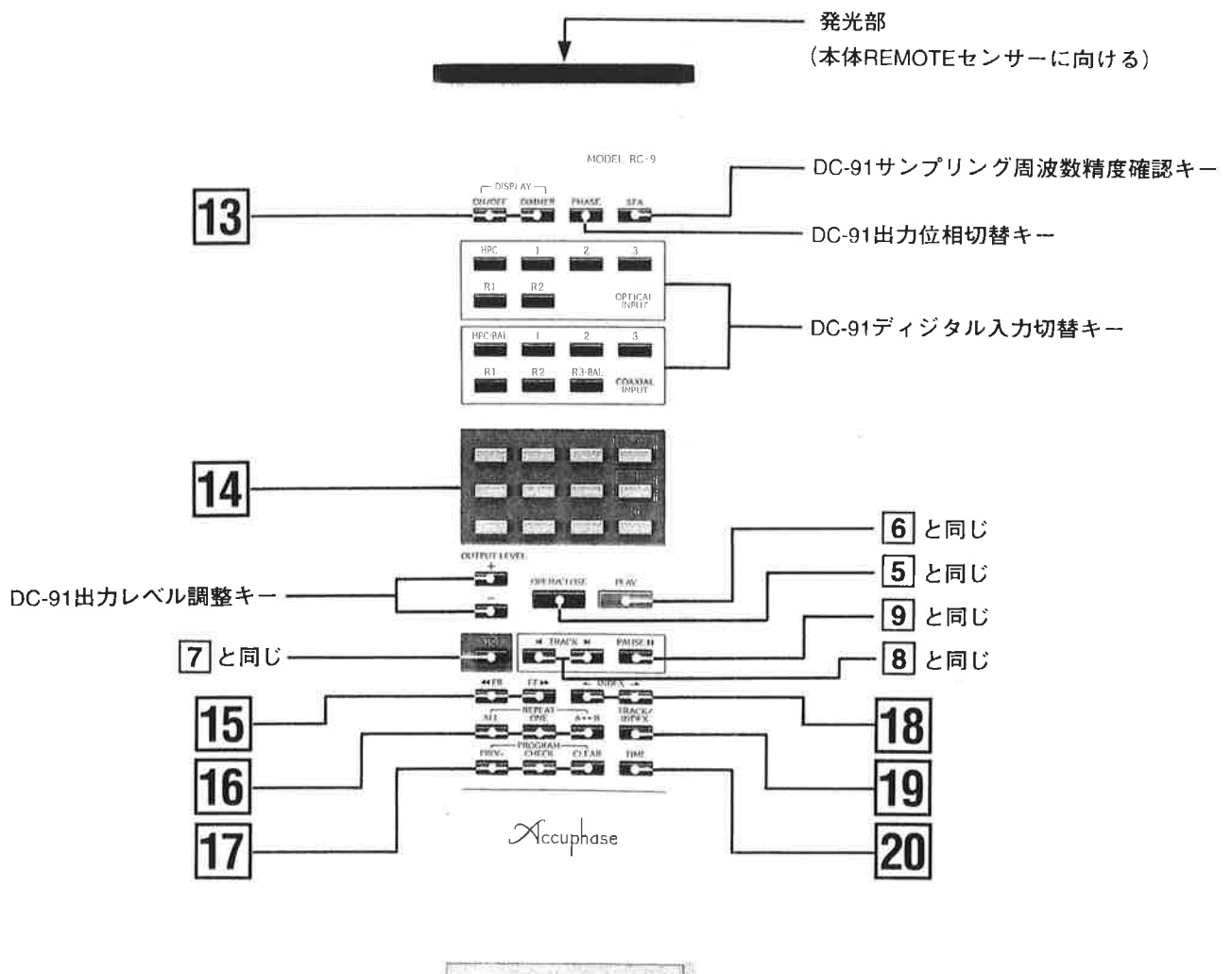
リアパネル



**4** ディスプレイ部

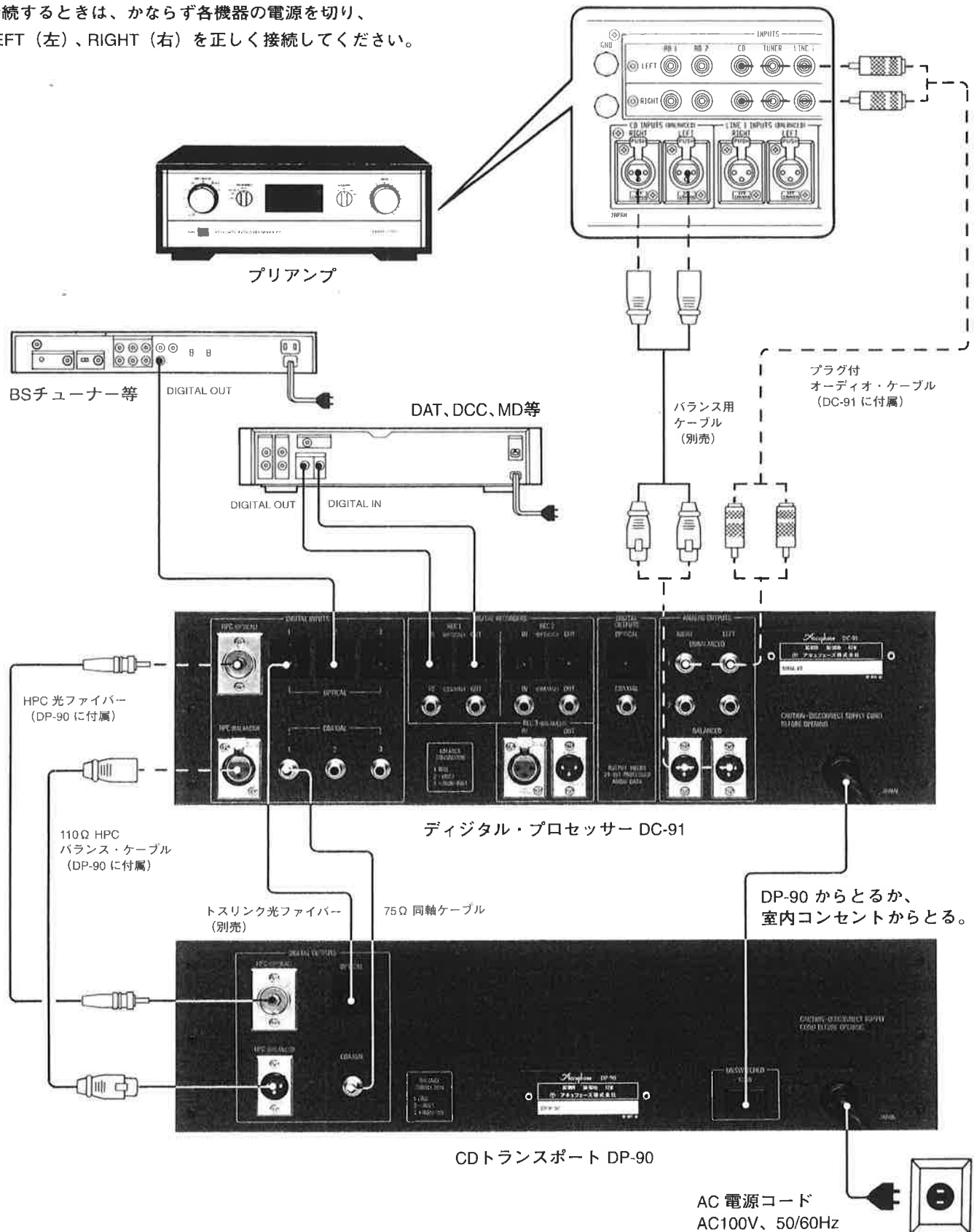


リモート・コマンダー RC-9



# 接続図

接続するときは、かならず各機器の電源を切り、  
LEFT (左)、RIGHT (右) を正しく接続してください。



# 特長

## ■高品質伝送、HPC (High Performance Connection) デジタル出力を装備

DP-90ではさらに高性能化を目指し、HPCオプティカルとして150M BPSの伝送レートを持つ、ビューレット・パッカー社の超高速光リンクを装備しました。HPCオプティカルの光ファイバーとして、コア/クラッド径が50/125 $\mu$ mのマルチモード・グレーデッド・インデックスの石英ガラス・ファイバーを付属、パルス伝送ひずみやジッターが皆無でピュアなデジタル信号を送ります。

さらに、AES/EBUの規格にも準拠している、HPCバランス（平衡型3線式）も装備しました。この伝送用として、XLRタイプのコネクター付き、110 $\Omega$ の特性インピーダンスをもつ専用ケーブルを付属しています。アナログ伝送の場合と原理的に同一で、優れた外来雑音妨害排除特性をもっています。なお、この出力は業務用フォーマットになっています。

この他に、一般のコンバーターに接続するためのEIAJ規格のオプティカルおよび同軸出力も設け、あらゆる出力に対応しています。

## ■レーザーピックアップにRF増幅器を内蔵し、雑音妨害に対処

レーザーピックアップの出力は極小で、このままでは周囲の雑音に妨害されます。DP-90のピックアップには、新開発の超小型軽量RFアンプを内蔵、増幅された大信号を送り出すことにより、雑音妨害を防ぎました。

## ■サーボモーター・ドライブにアース依存のないバランス駆動回路

スピンドル、スレッド、フォーカス、トラック、トレイの各アクチュエーターに流れるドライブ電流は、その駆動状態によって常に激しく変化します。この電流変化は他の回路にも影響を与え、音質変化を招きかねません。本機は、これらのアクチュエーターを2つのアンプで駆動するバランス駆動回路を用いています。このためアースには電流は流れず、他の回路から分離していますので、それぞれの干渉がありません。

## ■8mm厚のアルミ無垢シャーシ構造

CDメカデッキやコントローラAss'yは、8mm厚のアルミ無垢シャーシによって支えられています。これにより、回転体から発生する振動、外部から受ける機械振動・音響振動の影響を受けにくい、剛性の高い構造体を構成、安定した信号読取が可能になっています。

## ■耐久性と長期安定性を保障するCDメカデッキ (CDトランスポーター)

ディスクを駆動するブラッシレス・モーターは、直径3mmの極太スピンドルをサファイアの軸受けでしっかりと保持しています。耐摩耗性に優れ、長期にわたって安定した駆動を可能にします。

## ■トレーの共振を防ぐオートロック機構

ディスクのスライドするトレーは演奏中、回転機構から外れ共振の元になり、信号を劣化させます。本機のドライブ・ユニットは、演奏中トレーをしっかりとロックし、共振を皆無にするように配慮しました。

## ■機能別に分離された2トランス構成

電源トランスは、デジタル信号処理、マイクロコンピュータ、表示関係と、負荷変動の激しいスピンドル、スレッド、フォーカス、トラック、トレイの各アクチュエーター関係を別々に分離しました。これにより、安定度の高い高品質のDAI信号を得ることができます。

## ■音質重視の金プレート化プリント・ボード

ユニット化されたコントローラ・ボードやトランスポートは、マザーボードで繋がれていますので、内部の配線がほとんどなくなり大変信頼性が高くなっています。これらのプリント・ボードは、音質向上のためすべて金プレート化されています。

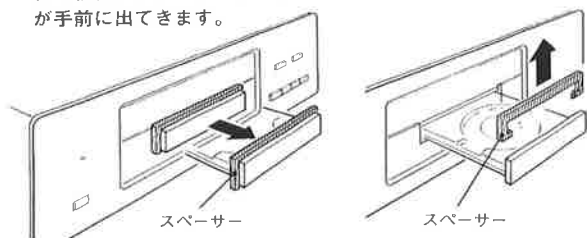
# ご注意

## ～お使いになる前に～

レーザー・ピックアップを含む光学部品は輸送時の衝撃から保護するためにロックされています。ご使用前にスペーサーを図のようにはずしてください。

電源スイッチを入れると、約5秒後にディスク・テーブルが手前出てきます。

スペーサーをはずします。



伝送の場合は、インピーダンスが合わないと、正確な信号を伝送することができません。HPCバランス端子には、付属の特性インピーダンス110Ωのケーブルを、また同軸用端子には、高周波特性の優れたビデオ用のインピーダンス75Ωケーブルを使用してください。

これらのケーブル使用時に、テレビ画面に妨害（しま模様など）を与えることがあります。このような場合には、ケーブルをテレビから離すか、光ファイバーをご使用ください。

### ■DP-90/DC-91でディマー動作が揃わなくなった場合

リモート・コマンダーでDP-90/DC-91の両方を同時にディスプレイON/OFFやディマー・コントロールすることができますが、使用方法によっては動作が片方の機種だけになって、揃わなくなることがあります。

ディマー・コントロールが揃わなくなった場合には、ディスプレイON/OFFをすると設定されていたディマーは解除され、両機種とも最大の明るさになります。

ディスプレイON/OFF動作が揃わなくなった場合には、一方の電源を切り、他方のディスプレイON/OFF動作をさせれば、両機種の動作を揃えることができます。

### ■光学系ピックアップの結露について

CDプレーヤーでも次のようなときに、ピックアップ・レンズに結露することがあります。

- ストーブなど、暖房器具をつけた直後
- 湿度が高く、湯気が立ち込めている部屋に置いてあるとき
- 冷えた戸外や冷房のきいた部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだとき

#### 結露してしまったら

結露すると、光学ピックアップがディスクのデジタル信号を読み取ることができず、プレーヤーが正しく動作しなかったり、まったく作動しなくなります。

このような場合、ディスクを取り出して電源を入れておけば、長くても約1時間で露が取り除かれ、正常な作動をするようになります。

### ■ディスクの取り扱い

- 直射日光が当たる場所や、高音多湿のところには置かないでください。
- 演奏終了後は、ケースに入れて保存してください。
- レーベル面の反対側が信号記録面です。指紋やホコリなどの汚れは音質劣化の原因となります。お手入れの場合は、柔らかい布で内側中心から外側へ軽く拭いてください。

■トッププレートや底板は絶対にはずさないでください。内部に手などを触れますと感電事故や故障の原因となり、大変危険です。

### ■設置場所について

次のような場所へは設置しないように注意しましょう。

- 直射日光が当たる場所や暖房器具のそばなど、極端に温度の高いところ（周囲温度40℃以上）、または温度の低いところ（周囲温度5℃以下）は、正常な動作をしなくなる場合があります。
- 湿度が高い、ホコリが多い、水がかかる可能性がある場所等は、性能を低下させたり故障の原因になります。
- しっかりした、平らなラックや台に設置し、ぐらつく台や不安定な場所は避けましょう。傾いていたり、ガタツクところは禁物です。

### ■光ファイバーの取り扱いについて

本機には、HPC光ファイバーが付属されています。また、トスリンク用光ファイバーも別売しています。光ファイバーは、非常に細い石英ガラスで作られていますので、**曲げ、ねじれなどの力に非常に弱く、強く曲げたりすると断線して使用できません。**接続方法は本文を熟読して、取り扱いには十分注意してください。

セットアップした後で光ファイバーの長さに余裕があるときは、セットの後ろで大きく丸く束ねて（直径10cm以下にはしない）おいてください。決して強く曲げたり、ご自分で切断、再加工をなさないようにしてください。

光ファイバーは、中のコアに光信号が通ります。プラグの先端のよごれやキズ、レセプタクルの中の異物は天敵です。接続前には、柔らかいキレイな布で先端を軽く拭いてからご使用ください。

### ■デジタル伝送ケーブルについて

本機のデジタル出力は、光ファイバーの他に、HPCバランス・ケーブルや同軸ケーブルも使用できます。デジタル

# 各部の動作説明

## 1 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源スイッチがONのとき、ディスク・テーブルにディスクが入っていれば、ディスクの内容を自動的に読み込んで演奏待機の状態になります。

電源スイッチをOFFにすると、それまでに設定された機能は、ディスプレイのDIMMER関係や残り時間表示などを除いて解除されます。

## 2 ディスク・テーブル

▲OPEN/CLOSEスイッチを押すと手前に出てきます。ディスクはレーベル面を上にしてテーブルに載せてください。8cmディスクを演奏する場合にも、特別なアダプターを必要としません。

ディスク・テーブル前面を軽く押すか、▲OPEN/CLOSEスイッチをもう一度押すか、▶PLAYキーあるいは|| PAUSEキーを押すと閉じます。

## 3 REMOTEセンサー

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-9の赤外線信号を受信する窓です。リモート・コマンダーを使用するときは発光部をここに向けてください。

## 4 ディスプレイ部

### ① PLAY インジケーター

演奏中は点灯し、|| PAUSE中は点滅、STOP時は消灯します。

### ② PROGRAM インジケーター

プログラムをセットするときやプログラム演奏中に点灯します。

### ③ REPEAT ALL、ONE、A↔B インジケーター

リピート演奏時に点灯し、ALL（全曲）/ONE（1曲）/A↔B（指定区間）のいずれであることを表示します。

### ④ 演奏トラック・インジケーター

演奏中のトラック（曲の番号）を表示します。|| PAUSE（一時停止）中はその時点のトラック番号を表示します。なお、TIMEキーを切り替えて絶対残量時間を表示させているときだけ、このトラック表示は消えます。

### ⑤ TRACK/INDEX インジケーター

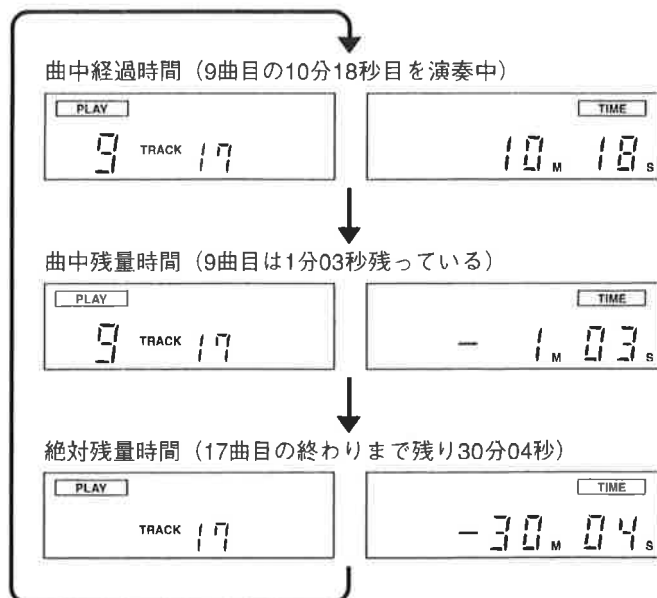
通常はディスクに入っている全曲数（TRACK:点灯）を表示しますが、INDEXサーチ・キーまたはTRACK/INDEXキーを押すと、インデックス番号（INDEX:点灯）を表示します。

再びTRACK/INDEXキーを押すと、トラック数表示に戻ります。

### ⑥ タイム・インジケーター

ディスクが中に入りますと、そのディスクの全演奏時間を表示します。STOPキーを押すと消えます。通常演奏中は曲中の経過時間を示していますが、Ⓣ TIME表示切替キーを押すことにより曲中経過時間/曲中残量時間/絶対残量時間を繰り返し表示します。

残り時間を表示しているときは、数字の前に一記号が出ます。また、演奏が始まる前（曲の導入部）においては経過時間がカウントダウンされますので、一記号が出ることがあります。





## 5 ▲ OPEN/CLOSE スイッチ

押すと、ディスク・テーブルが手前に出てきます。もう一度押すとテーブルは中へ入ります。ディスクが入っている場合には、直ちにディスクのリードイン・エリア (Lead-in Area) のTOC (Table of Contents) を読み始め、全曲数と全演奏時間を表示します。

## 6 ▶ PLAY (演奏) キー

ディスク・テーブルにディスクを入れて演奏を開始するときに押します。

ディスクがテーブル上にあって演奏待ちの状態のときは、▶PLAYキーを押すと自動的にテーブルが閉じて、最初のトラックから演奏を開始します。また、⑧トラックサーチ・キーでトラック番号が指定されていたり、さらにそのトラックのインデックス番号までも指定されているときは、指定された位置から演奏を開始します。

## 7 ■ STOP (停止) キー

演奏中や一時停止中にこのキーを押すと演奏停止になります。

## 8 ◀ BACK / ▶ NEXT (トラックサーチ) キー

### ◀ BACK TRACKサーチ・キー

演奏中や一時停止の状態、1回押すとその曲の頭に戻ります。続けて押すと順次、前の曲へトラック番号をカウントダウンします。

### ▶ NEXT TRACKサーチ・キー

前とは逆に、1回押すと次の曲の頭へ飛びます。続けて押すと順次、次の曲へトラック番号をカウントアップします。

- サーチ中はⓉTIMEインジケータは消え、音もでません。
- ディスクが入っている場合、Ⓣに表示されている最大トラックを超えることはありません。
- ディスク・テーブルが出ている場合にトラックサーチ・キーで番号を指定して▶PLAYキーを押せば、指定したトラックから演奏を開始します。ただし、指定した数字が最終トラックを超えているときは、そのディスクの最後の曲を演奏します。

## 9 || PAUSE (一時停止) キー

演奏を一時停止するときに押します。

- 押すと [PLAY] インジケータが点滅します。再開するときは、▶PLAYキーを押すか再度PAUSEキーを押すと、[PLAY] が点灯に変わり、停止した位置から再び演奏が始まります。
- ディスク・テーブルが出ている場合に、ディスクを入れてからこのキーを押すと、そのディスクの第1曲目の演奏開始待ちの状態になります。
- ||PAUSEキーで演奏停止中に、トラックサーチ・キーでトラック番号を変えたり、早戻し・早送りをするなど、ディスク上の位置を変更した場合はそのポジションから演奏を開始します。

## 10 DIGITAL OUTPUTS— デジタル出力端子

CDから読み取った音楽情報をデジタル信号で出力する端子です。デジタル・プロセッサ (D/Aコンバーター) やデジタル入力端子を装備したアンプ、DATなどと接続します。

デジタル信号は、左右チャンネルの音声や制御に必要な情報が一つの信号系で伝送する方式を採用しています。この4種類の端子から一つを選択してください。

### HPC (BALANCED)

AES/EBU規格に準拠し、業務用機器が標準仕様として採用している、出力インピーダンス110Ωのバランス型出力コネクタです。接続は、特性インピーダンス110Ωのケーブルが必要です。付属のHPCバランス・ケーブルを使用してください。

この伝送方式は、3線式 (①シールド、②③信号) の平衡形ラインで、放送局スタジオなどの業務用フォーマットになっています。

デジタル平衡伝送は、アナログのバランス伝送と同様に外来ノイズに強く、コンピューターの長距離伝送にも使われている方式です。

コネクタは、XLR-3-32相当型ですから、適合コネクタはXLR-3-11Cです。

## HPC (OPTICAL)

付属のHPC光ファイバーによる接続用端子です。

この端子はSTタイプの光リンクとコンパチブルがありますので、この形式のコネクター付機器と接続できます。(STはAT&T社の登録商標です。)

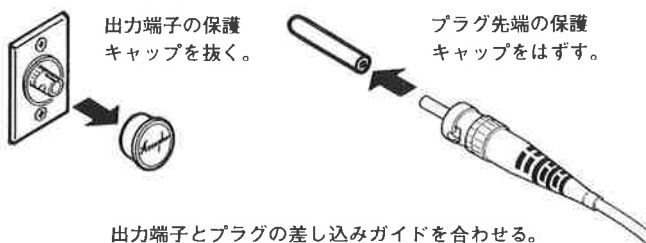
HPC光オプティカルは、通信用の長距離光伝送に用いられているもので、その伝送レートは、150M BPSにも達し、挿入損失が少なく、パルス伝送ひずみ・位相ずれ・ジッタがない理想的な伝送方式です。

### 《ご注意》

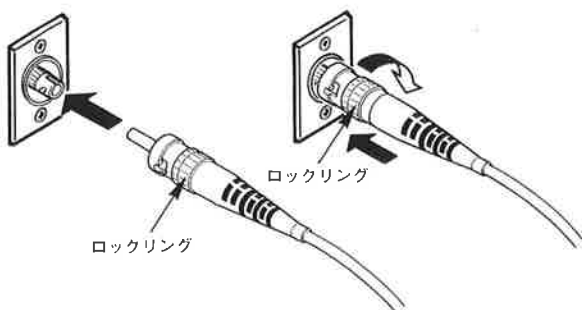
HPC光ファイバーはコア/クラッド径が50/125 $\mu$ mの極細石英ガラスを用いていますので、**曲げ**などの力には非常に弱く断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く束ねておいてください。**決して強く曲げない**てください。もちろん、**切断、再加工**などはできません。

コア(芯材)には光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は**大敵**です。使用しないときは、必ず**キャップ**をつけておいてください。

光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行い、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。



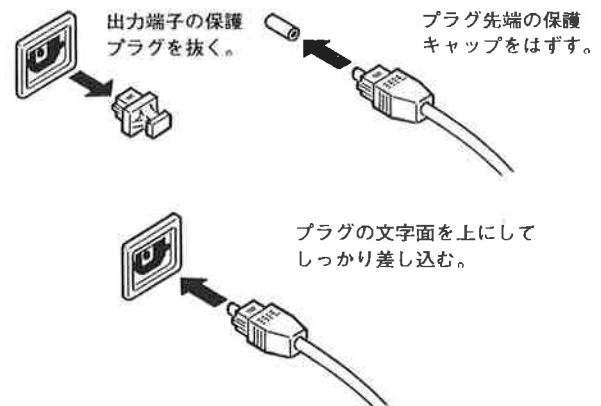
ロックリングを持ってプラグを確実に差し込んだ後、さらにロックリングを押し込み、時計方向に回してロックします。



## OPTICAL

EIAJ規格のトスリンク光ファイバー接続用端子です。この形式の光ファイバー用レセプタクルを装備している機器と接続できます。アキュフェーズで別売の光ファイバー(LG-10等)は、コアに石英ガラスを使用した本格的なものです。

前述のHPC光ファイバーと同様、曲げには弱いケーブルですので、取り扱いには十分ご注意ください。



## COAXIAL

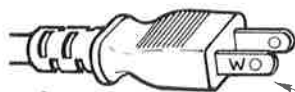
ピンプラグ付同軸ケーブルで接続してください。このジャックから信号を伝送する場合は、デジタル信号の周波数が非常に高いので、質の良いビデオ用のケーブル(75 $\Omega$ )をご使用ください。

## 11 UNSWITCHED — 電源スイッチに連動しないACコンセント

電源コードをACコンセントに接続すると、本機の電源スイッチのON/OFFに関係なく、他の機器への電源を供給することができます。消費電力が100Wを超えないように注意してください。

## 12 AC電源コード

室内のコンセントは大地に対して極性を持っています。機器とこの極性を合わせることで、音質的に良い結果が得られる場合があります。本機も電源の極性を合わせるように配慮し、電源プラグの接地側に『W』マークを刻印しています。



“W” マークを接地側にする。

しかし、本機の電源ラインには高周波雑音を遮断するため、ラインフィルターが挿入されていますので、極性チェッカーで確認すると、極性が生じないか、または誤表示する場合があります。このような場合でも、本機の『W』マークは接地側としてお使いいただいて問題ありません。

### ■AC電源電圧の変更とヒューズについて

DP-90は使用できる電源電圧をセット内部で100V、117V、220Vおよび240Vの4段階に切り替えられます。また、電源1次側のヒューズも電源トランスの近くについていますが、電源電圧の変更やヒューズが切れて電源が入らなくなったときは、必ず弊社の品質保証課、またはお求めの専門店へご連絡くださいますようお願いいたします。

## 13 DISPLAYキー

### ON/OFF

DP-90/DC-91のディスプレイの表示をすべて消すことができます。もう一度押すとディスプレイが表示されます。

ディスプレイ・オフ状態で電源を入れると、ディスプレイは約5秒間表示された後、消えます。

“Accuphase”の文字は消えません。

### DIMMER

このキーを押すことにより、DP-90/DC-91のディスプレイ表示の明るさを3段階に変えることができます。

ディスプレイOFFしてからONにすると、今まで設定されていたディマーは解除され、最大の明るさになります。

“Accuphase”の文字は変わりません。

## 14 ダイレクトプレイ・キー

このキーを使うと、⑥の▶PLAYキーを押すことなくトラック(曲)の番号を直接指定して、演奏を開始させることができます。II PAUSE中、STOP状態の時、演奏中であってもこのキーが優先します。

- [1] ~ [9] までのキーを押すと、その番号から演奏を開始します。
- [+10] と [+20] のキーは10位の桁を、[0] キーは1位の桁を表します。

例:23番を演奏するには

[+10] キーを2回押してから [3] キーを押します。

または、[+20] キーを押してから [3] キーを押します。

30番を演奏するには

[+10] キーを3回押してから [0] キーを押します。

または、[+10]、[+20]、[0] キーを順に押します。

- [+10] や [+20] キーを押すと、10位の桁が押した回数に比例してカウントアップしていき、1位の桁は“—”表示されます。1位の桁を5秒以内に指定しないと元に戻ってしまいます。
- 演奏途中に [+10] や [+20] キーを押してから次のキーを押すまでは、そのまま演奏が続きます。
- ディスクを入れて演奏を始める前、このキーでトラック番号99までの番号を指定できます。
- ディスクのトラック番号を超える数字が入力されたときは、そのディスクの最終トラックの演奏を開始します。
- ディスクが入っているときに、存在しないトラックを指定しようとしても受け付けません。

## 15 ◀◀FR(早戻し)/▶▶FF(早送り)キー

▶PLAY (演奏) 中およびII PAUSE (一時停止) 中に作動させることができます。両キーとも押し続けている間動作します。

- II PAUSE中は4倍の速さで早戻し、早送りができます。
- ◀◀FRキーを押し続けて第1トラックの先頭に到達し、さらに続けて押すと、PLAY状態のときは第1トラックから演奏を開始します。
- ▶▶FFキーを押し続けて演奏が終了すると、自動的にII PAUSE状態になりますので、演奏トラックを再指定してください。

## 16

### REPEAT (繰り返し演奏) キー

- ALL/ONE/A↔Bのどれか1つのキーを押すと **REPEAT** が点灯し、リピート動作状態となります。
- リピート解除はキーを再び押すかディスク・テーブルを開けてください。STOPキーでは解除できません。
- リピート演奏中でもトラックサーチ、インデックス・サーチ、早戻し・早送りなど、すべての動作が通常と変わることなく操作できます。
- “ALL” と “ONE” はいかなる状態にあるときでも、指令をだすことができます。

#### ALL (全曲) リピート・キー

ディスクに記録されている全曲を繰り返し演奏させるためのキーで、ALLキーを押すと©インジケーターに“ALL”が点灯し作動状態になります。

#### ONE (1曲) リピート・キー

ディスク内の特定の1曲だけを繰り返し演奏させるキーで、ONEキーを押すとインジケーターに“ONE”が点灯し作動状態になります。

リピート中、トラックサーチ、早戻し・早送りなどで演奏しているトラックが変わったときは、変更後のトラックで1曲リピートを行ないます。

#### A↔B (指定区間) リピート・キー

ディスク内の指定した区間を繰り返し演奏させるためのキーです。

- ① 演奏中に起点となるところ『A点』でA↔Bキーを押す。  
“A↔B”インジケーターが点滅してA点が設定。
  - ② 折り返したいところ『B点』に到達したら、再度このキーを押す。“A↔B”が常時点灯に変わって、演奏はA点に戻る。
  - ③ A～B間を繰り返して演奏する。
- 早送り・早戻し、トラック・サーチのキーを使うと、手早くA点、B点を定めることができます。
  - PAUSE (一時停止) 中にも設定可能です。
  - トラックサーチ、インデックス・サーチ、早戻し・早送りなどにより指定区間を飛び出した場合には、図の様に動作します。

**A↔Bリピート・キーで、特定の曲、区間をジャンプさせることが可能です。**

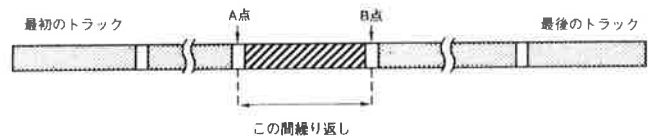
A点より時間的に手前にB点を設定します。

まず、A点を設定したらトラックサーチや早戻しキーを操作して、B点を手前に設定してください。A点から最後のトラックの演奏が終わると、今度は最初のトラックの頭から演奏が始まり、B点に到達すると直ちにA点へジャンプしてしまいます。

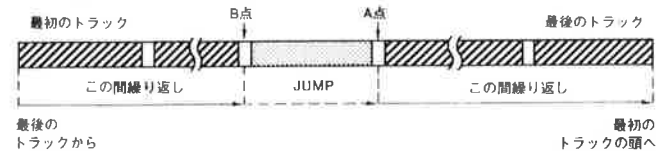
つまり、B～A間をカットした演奏が可能です。

事前に時間表示を調べておいて、PAUSE (一時停止) 中に行なえば簡単にセットすることができます。

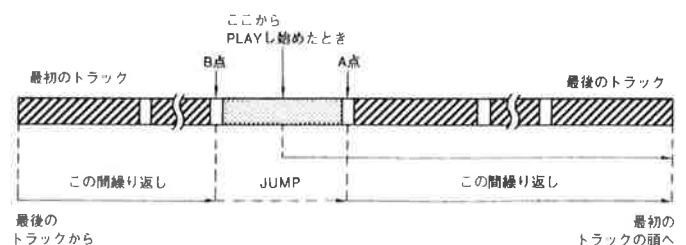
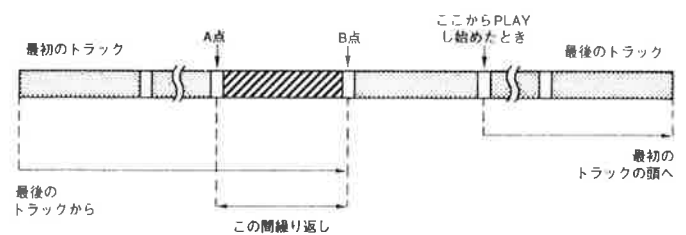
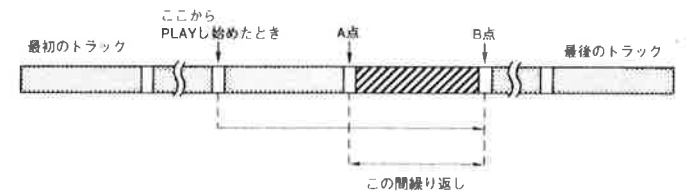
#### 《A点がB点より時間的に前のとき》



#### 《B点がA点より時間的に前のとき》



#### 《指定区間外からPLAYしたときのREPEAT動作》



## 17 PROGRAM (プログラム) 演奏キー

ディスクの中から聴きたい曲だけをピックアップして、好きな順序で演奏を楽しむための大変便利な機能です。また、20曲までのプログラムが可能ですから、限度以内のディスクなら曲の演奏順序を変えて楽しんだり、同一の曲を指定回数だけ繰り返し演奏させる、ということも可能になります。

### 《プログラム演奏のセット方法》

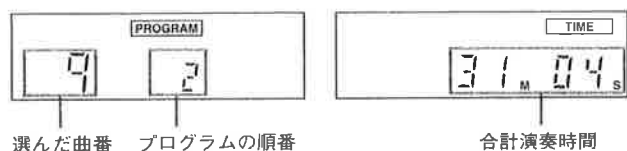
#### ●プログラムをするには

ディスクが入って演奏待機の状態（STOPキーが押された状態）からプログラムを実行することができます。演奏中や一時停止中にプログラム演奏のセットはできません。

PROGキーを押すと「PROGRAM」が点灯してプログラム開始可能となります。プログラム・モードを解除するには、再びPROGキーを押してください。STOPキーでは解除できません。

#### ●「PROGRAM」が点灯したら

⑭ダイレクトプレイ・キーで希望する演奏トラックの順序に従って曲番を入力していきます。キーを押して曲番を入力すると、⑮にトラック番号が、⑯にはプログラムした順序、⑰にはプログラムした曲の合計演奏時間が表示されます。この時間表示は99分59秒を超えると“---m---s”となります。曲番を押しまちがえたときは、CLEARキーを押します。



#### ●プログラムしたトラック番号を確認するには

トラックサーチ・キー◀ BACKと▶ NEXTを使用します。プログラムした順番と範囲内において順次、移動させることができます。

#### ●プログラムのセットが完了したら

▶PLAYキーを押して演奏開始です。

#### ●プログラム演奏中にプログラムの演奏順序や曲数がチェックできる

CHECKキーを1回押す度に、プログラムした第1曲目から順番に局番がディスプレイされます。そのままにしておけば、2秒後に解除されて、キーが押される前の状態に復帰します。なお、チェック中は時間表示はありません。

#### ●途中にプログラムを追加したいときは

STOPキーを押します。次にトラックサーチ・キーを使って追加したい場所をディスプレイさせて、ダイレクトプレイ・キーで入力します。表示されているトラック番号の次のところに追加入力されます。

#### ●入力したプログラムを一部削除したいときは

STOPキーを押します。次にトラックサーチ・キーを使って削除したい曲番を表示させてCLEARキーを押します。▶PLAY (演奏) 中やII PAUSE (一時停止) 中にはできません。

#### ●セットしたプログラムをすべて削除したいときは

ディスク・テーブルを開けるか、一旦電源を切ります。

### 《プログラム演奏中のご注意》

- ▼プログラム演奏中にPROGキーを押すと、演奏は続行されますがプログラム・モードは解除されて通常の演奏になります。
- ▼プログラム演奏中にSTOPキーを押すと、演奏は停止しますが、プログラム・モードは解除されません。
- ▼プログラム演奏中に◀ BACK TRACK/▶ NEXT TRACKキーを用いれば、プログラム順序に従って、戻り/送りされ、希望のトラックの頭から演奏開始ができます。
- ▼プログラム演奏中にダイレクトプレイ・キーは作動しません。
- ▼REPEAT (繰り返し) 演奏は、プログラム演奏中やプログラム中であってもセット可能ですが、A↔B REPEATはできません。
- ▼プログラム演奏中においてもINDEX (インデックス) キーを使用して演奏を楽しむことができます。
- ▼プログラム演奏中は、全残り時間表示は“---m---s”になって、表示されません。曲中の残り時間は表示させることができます。

## 18 ⇐ INDEX(インデックス・サーチ)キー

インデックス番号とは1曲の中を細分化する場合に付けられている番号です。楽章の変わり目や曲中の節目に付けられていると、曲の特定な場所からの演奏が容易になります。ディスクや曲種によって細分化されていないものも多くありますので、ディスクの解説書をご参照ください。

- ◆サーチ中はTIMEインジケーターが消えます。また、音も出ません。
- ◆インデックスをサーチすると、ⓍTRACK/INDEXインジケーターはインデックス番号表示に変わります。元の曲数表示(最終トラック番号表示)に戻すときは、TRACK/INDEXキーを押してください。

### ← BACK INDEXサーチ・キー

▶PLAYおよびII PAUSE状態のときにこのキーを1回押すと、演奏中のインデックスの頭に戻り、続けて押すと順次、前のインデックスへカウントダウンします。そのトラック内のインデックス1番より前へ戻ることはありません。

### → NEXT INDEXサーチ・キー

このキーは逆に、1回押すと次のインデックスの先頭に飛びます。続けて押すと順次、インデックスをカウントアップします。

インデックス・サーチは、そのトラック内を飛び出すことはありません。存在するインデックス番号より大きい番号を指令しますと検索後は、最終インデックスの頭に飛びます。

## 19 TRACK/INDEXキー

このキーは、ⓍTRACK/INDEXインジケーターの表示を切り替えます。通常、ディスクが入っていれば、そのディスクの最終トラック番号をディスプレイしていますが、このキーを押すと、その時点のインデックス番号を表示します。再度このキーを押すと最終トラック表示に戻ります。

## 20 TIMEキー

TIME切替キーは、ⓍTIMEインジケーターの表示モードを切り替えるキーです。

通常は曲中の経過時間を表示していますが、**キーを1回押すごとに** [曲中経過時間→曲中残量時間→絶対残量時間] を繰り返し表示します。このように、キーを押す度に3種類の時間表示が循環します。6ページ参照。

残り時間の数字の前には-表示されます。

# ご使用方法

## 演奏の前に

- 本機の出力は、デジタル信号だけの装備ですので、アナログ信号をとりだすには、デジタル・プロセッサDC-91が必要です。もちろん、デジタル信号の伝送フォーマットが同じ、他の製品（D/Aコンバーター、DATなど）と接続することも可能です。
- 各ファンクション・キーの動作状態の詳細は、『各部の動作説明』と『リモート・コントロール』の項を参照してください。
- POWERスイッチは、機器が正しく接続されるまで入れないでください。また、**アンプのボリュームは演奏開始と同時に大音量にならないように、下げておいてください。**

## 演奏の基本操作

- ①本機を含む、ステレオ・システムの各機器の電源スイッチを入れます。
- ②OPEN/CLOSEキーを押して、ディスク・テーブルを出します。ディスク・レーベルはレーベル面を上にしてテーブルの上ののせます。レーベル面の反対側が、信号記録面ですので汚したり、指紋をつけないよう注意しましょう。
- ③PLAYキーを押し、アンプのボリュームを上げます。テーブルが閉じて、ディスクの第1曲目から演奏がはじまります。①PLAYトラック・インジケーターには“1”が表示され、②TRACKインジケーターには、ディスクの総曲数、その右の③には、演奏経過時間をカウントします。
- ④最後の曲の演奏が終了すると、本機は、スタンバイ状態、つまり指令待ちの状態になります。
- ⑤OPEN/CLOSEキーを押して、ディスク・テーブルを出します。ディスクを取り出し、本機の使用終了の場合には、必ずディスク・テーブルを閉じておいてください。

## 演奏を直ちに開始しないとき

- ◎ディスクを入れて▶PLAYキーの代わりに|| PAUSEキーを押すと、テーブルは閉じ、第1曲目の演奏開始待ちの状態になります。
- ◎ディスク・テーブル前面を軽く押すか、開閉スイッチを押すと、テーブルが閉じて合計曲数と総演奏時間をディスプレイして、次の指令があるまでスタンバイ状態になります。

## 途中のトラック（曲）からの演奏

- ◎ダイレクトプレイ・キーを使うと、ポーズ（一時停止）状態やディスク・テーブルが出ているときであっても、指定の曲から直ちに演奏を開始することができます。このときに指令したトラックの番号が、ディスクに入っている番号より大き過ぎた場合は、最終トラックの演奏が始まります。
- ◎テーブルが出ているか、ストップ状態で、トラックサーチ・キーを使って、任意の曲を選択し、▶PLAYキーを押します。
- ◎▶PLAYキーを押して、演奏が始まる前にトラックサーチします。トラックサーチ・キーを使うと、ディスク内任意の各曲の頭から自由に演奏を開始することができます。

### 途中で演奏を中止するには

- ◎一時停止は **II PAUSE** キーを押します。[PLAY] が点滅して演奏は停止します。一時停止を解除するときは **▶PLAY** キーか再度 **II PAUSE** キーを押してください。停止したところから演奏が始まります。
- ◎演奏を止めるには **STOP** キーを押します。STOP キーを押した場合は、続きの演奏はできません。
- ◎ディスクを取り出すときは演奏中でも、ディスク・テーブル開閉スイッチを使います。DIMMER 関係を除いて各種のファンクションもすべてクリアされます。

### 曲の途中から演奏を開始するには

- ◎インデックス・サーチ・キーを使用すると、曲の途中の**特定のインデックスから演奏**を始めることができます。12 ページに詳しく説明してあります。
- ◎トラックサーチ・キーやダイレクトプレイ・キーでトラックを選択し、その後、早送り、早戻しキーで**任意の場所から演奏**を始めることができます。
- ◎ **II PAUSE** キーを押しておいてトラックサーチと早送り、早戻しキーで**目的のトラックと分・秒を合わせて演奏**を開始することができます。

### リピート (繰り返し) 演奏

REPEAT キーを使い分けると、ディスク全曲/1曲/指定した特定部分の繰り返し演奏ができます。10 ページに詳しい解説があります。

#### ◎ディスク全曲の繰り返し演奏

REPEAT “ALL” キーを押してください。最後のトラックの演奏が終わると最初のトラックへ戻り、演奏が再開されます。指令が解除されるまで繰り返します。

#### ◎1曲だけの繰り返し

REPEAT “ONE” キーを押します。押したときのトラックを繰り返し演奏します。

#### ◎特定部分の繰り返し

REPEAT “A↔B” キーを使います。演奏中に起点となるところ『A点』で1回押すと“A↔B”が点滅してA点が設定され、次に折り返したいところ『B点』に到達したら再度このキーを押します。“A↔B”が常時点灯に変わり、A～B間を繰り返し演奏します。**II PAUSE** 中でも設定可能です。

#### ◎特定部分だけをジャンプさせて演奏

前記の説明で『B点』の設定を、早戻しキーやトラックサーチキーなどで時間的にA点より前に戻して設定します。そうすると、B～Aをジャンプして演奏を繰り返します。

### プログラム演奏

PROGRAM キーを使うと、聴きたい曲だけを好きな順序で演奏を楽しむことができます。11 ページに詳しい解説があります。

#### ◎プログラム演奏のセット方法

STOP 状態のとき、PROG キーを押してダイレクト・キーで希望する演奏トラック番号を希望の順序で入力します。

#### ◎プログラムしたトラック番号を確認するには

トラックサーチキーによりプログラムした曲番と順序を確認することができます。

#### ◎プログラム演奏中にプログラムした演奏順序や曲数をチェックしたいとき

CHECK キーを一回押す度に、プログラムした第1曲目から順番に内容がディスプレイされます。

#### ◎入力したプログラムを削除したいとき

STOP 状態でトラックサーチ・キーを使って削除したい曲番を表示させ、CLEAR キーを押します。

#### ◎プログラムを追加したいとき

STOP 状態でトラックサーチ・キーを使って追加したい場所を表示させて、ダイレクト・キーで入力します。表示されているトラック番号の次のところに追加入力されます。



### タイマー演奏

市販のオーディオ・タイマーとの組み合わせにより、ご希望の時間に指定のトラック／インデックス番号より演奏を開始することができます。

STOPキーを約5秒間連続して押し続けると表示部に“P-on”と表示され、パワーオン・プレイ・モードになりタイマー演奏可能となります。再度STOPキーを約5秒間押し続けると、“P-oF”と表示され通常の使用状態になります。このように、STOPキーによりP-onとP-oFが交互に設定されます。ディスクが入っていないなくても、この状態を設定することができます。

P-on表示



P-oF表示



### 《P-on設定の場合》

P-on表示後、◀BACK/▶NEXT TRACKキーにより希望のトラック番号を指定します。PLAYキーを押して演奏を始めるか、指定後電源をOFFにするとその番号が記憶され、次の電源スイッチON時には、そのトラック番号の最初から演奏を開始します。

INDEX番号も同様にINDEXサーチ・キーにより記憶されます。

番号指定後は、通常の操作方法により演奏をお楽しみください。

- ダイレクト・キーからのトラック番号の指定は記憶されません。
- 番号指定をしないで電源OFFにしますと、次の電源スイッチON時には、1番目のトラック／インデックスより演奏を始めます。
- 記憶されたトラック／インデックス番号は、新たに“P-on”表示して指定するまで変更されません。
- 番号指定後、ディスクを交換してもその番号より演奏します。ただし、記憶された番号がそのディスクの総トラック／総インデックス数より大きい場合には、最後のトラック／インデックス番号より演奏します。
- リピートの“ALL”と“ONE”は、電源OFF直前の状態が記憶されます。

### 《P-oF設定の場合》

この表示にしますと通常の動作状態です。電源ON時に、ディスクが入っていれば内容を読み込んで演奏待機状態になりますが、演奏は開始しません。

## リモート・コントロール

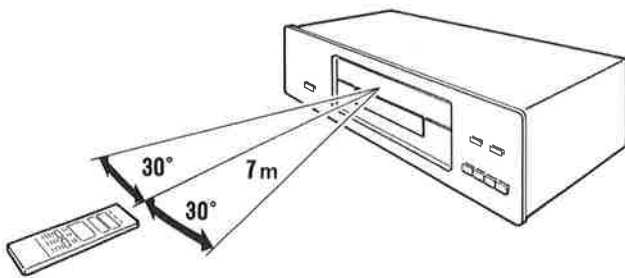
本機に付属しているリモート・コマンダーRC-9を使わずと離れたところからDP-90をコントロールすることができます。また、DC-91の機能も搭載されていますので、両機種のコントロールが可能です。

DP-90本体側の機能とは別にダイレクトプレイ・キー、リピート・キー、プログラム・キーなど、多彩な機能が満載されています。詳しくは、2ページを参照してください。

### ■使用方法

リモート・コマンダーの発光部をDP-90本体の③REMOTEセンサーに向けて、図の範囲でお使いください。

- 落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。
- 直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。



### ■電池について

#### 【電池の交換時期】

電池は普通に使って約8ヶ月はもちますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗すると、キーを押してもDP-90のコントロールができなくなります。

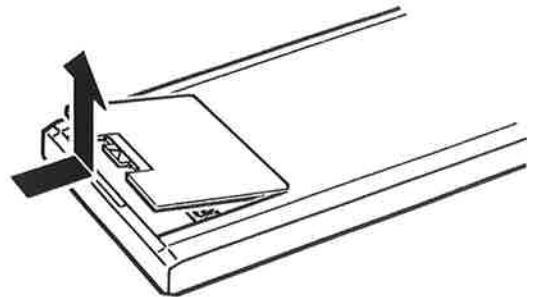
使用する乾電池は、UM-4（単4）型を2個、両方とも新しい電池に交換してください。

#### 【電池についてのご注意】

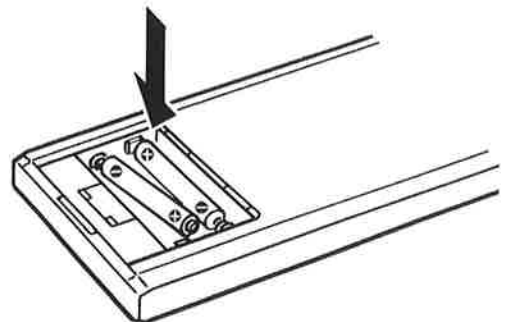
乾電池も正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。次の点に十分ご注意ください。

- 電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、⊕（プラス）、⊖（マイナス）を正しく合わせてください。
- 新しい電池と、1度使用したものを混ぜないようにしてください。
- 同じ形状でも、性能の異なるものがありますから、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないようにしてください。
- 長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておいてください。
- 万一、液漏れを起こしたときは、電池ケースについた液をよく拭き取ってから、新しい乾電池を入れてください。

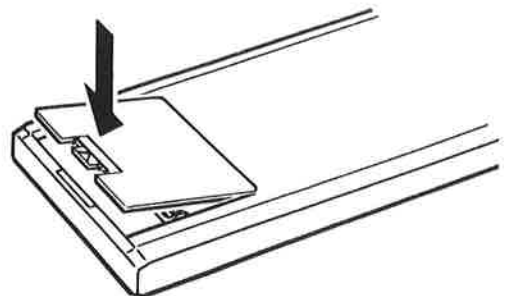
### 《乾電池の交換》



ツメを矢印の方へ押しして蓋を開ける。



UM-4（単4）型乾電池2個、  
⊕ ⊖ を正しく入れる。



カチッと音がするまで閉める。

# 保証特性

[保証特性はEIAJ測定法CP-307に準ずる]

形式	CD専用デジタル信号再生機
フォーマット	CD標準フォーマット エラー訂正方式：CIRC チャンネル数：2チャンネル 回転数：500～200rpm (CLV) 演奏速度：1.2m/s～1.4m/s一定
読み取り方式	非接触光学式読み取り (半導体レーザー使用)
レーザー	GaAlAs (ダブルヘテロ・ダイオード)

## デジタル出力フォーマット (EIAに準ずる)

タイミング精度	：レベル I
HPCオプティカル	：光出力：-19～-14dBm 発光波長：820nm
HPCバランス	：5V <sub>p-p</sub> 110Ω
OPTICAL	：光出力：-21～-15dBm (EIAJ) 発光波長：660nm
COAXIAL	：0.5V <sub>p-p</sub> 75Ω

## 電源・消費電力

100V 117V 220V 240V 50/60Hz 12W

## 最大外形寸法・重量

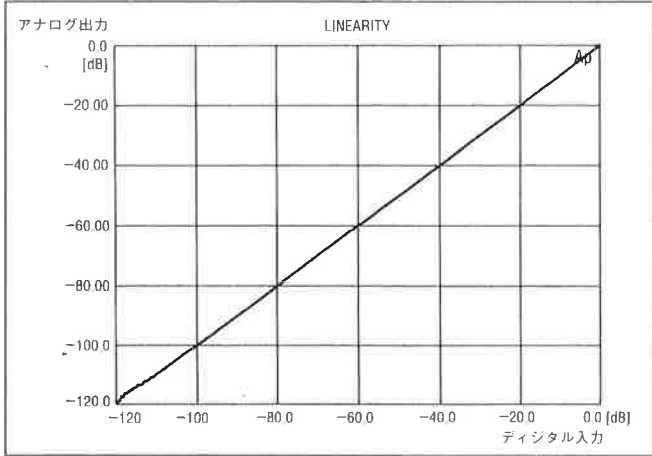
幅475mm×高さ149mm×奥行379mm  
20.5Kg

## [DP-90付属リモート・コマンダーRC-9]

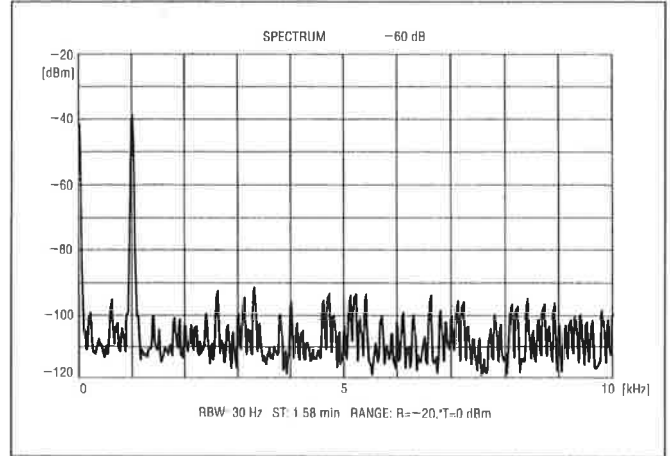
リモコン方式	：赤外線パルス方式
電源	：DC 3V・乾電池UM-4型 (IEC呼称RO3) 2個使用
最大外形寸法	：66mm×225mm×20mm
重量	：280g (電池含む)

# 特性グラフ

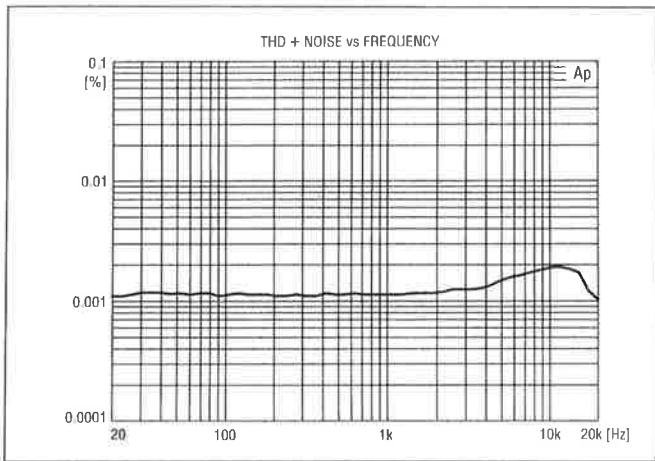
グラフは、DP-90とDC-91を接続したときの特性です。



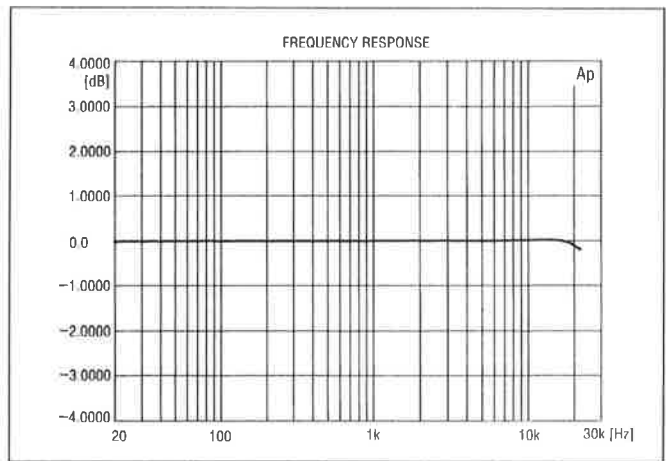
リニアリティ (デジタル入力/アナログ出力)



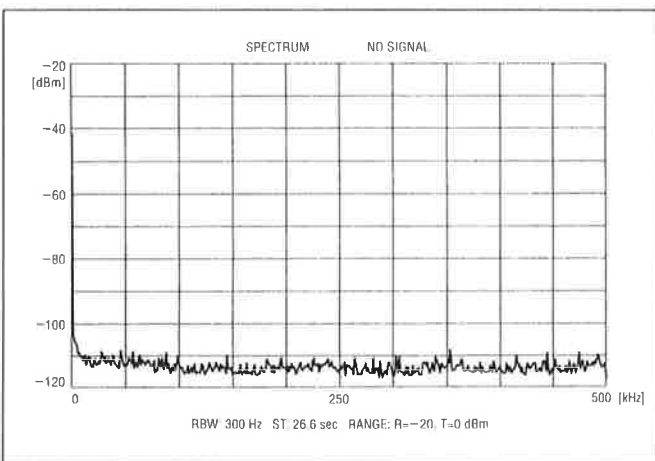
1kHz、-60dB 再生時の周波数スペクトラム



全高調波ひずみ率 (雑音含む) / 周波数特性

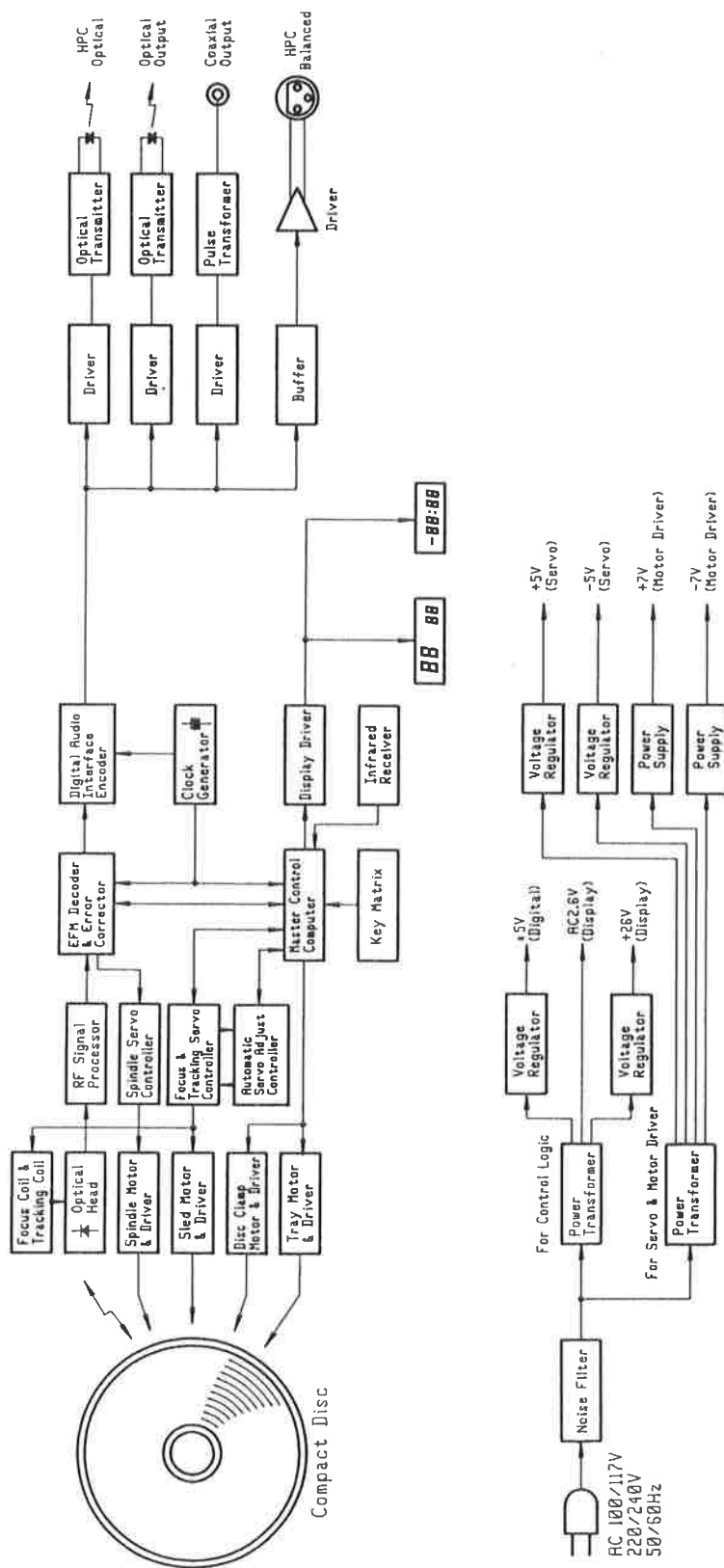


周波数特性



無信号再生ノイズの周波数スペクトラム

# ブロック・ダイアグラム



Accuphase

ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市緑区新石川2-14-10

〒225 TEL(045)901-2771(代表)